

## 編集後記

機関誌『陽明学』第十号（王龍溪特集号）をお届けする。

この号、巻頭には、吉田公平氏（広島大学教授）の玉稿を頂戴することができた。三本目は予定に変更があり、中根公雄氏（二松学舎大学東洋学研究所副手）に、前号に引き続き、短時日で間に合せていただいた。

特集部分は錢徳洪特集の第五号の例に倣い、中国の研究者のものに重点を置く編集方針を立てたので、国内の分は数ある明代思想研究者の中から佐藤鍊太郎氏（北海道大学教授）・馬淵昌也氏（専修大学助教授）のお二人にお願いした。

中国の研究者の関係は、正田啓佑氏（本研究所客員研究員、福岡女子大学教授）の紹介を得、錢明・方祖猷両氏の書き下ろしを頂戴することができた。正田氏は後者について、手づから翻訳の労をとられた。前者の翻訳は、渡辺賢氏（二松学舎大学非常勤助手）をリーダーとする二松学舎大学陽明学輪読会のメンバー（同大学院博士前期課程、土屋隆史氏・一瀬臣吾氏等）が担当した。加えて本号は、陳来氏と永富青地氏

（早稲田大学講師）の共同執筆による労作を載せることができた。実は前号と本号に分載の予定であったが、龍溪特集との関連もあり、本号に纏める形となった。鮮度を落した責は偏に編集者の負うところである。錢氏・方氏・陳氏に関してはそれぞれ本誌のなかの「著者紹介」を参看されたい。

ひるがえって、当研究所では春と秋に講演会を主催することとし、昨春には筆者が「母意と誠意」と題し、昨秋には大島晃氏（本学非常勤講師、上智大学文学部長）が「井上哲次郎『日本陽明学派之哲学』と雑誌『陽明学』等」と題して、開催した。

なお、当研究所は、一九九八平成一〇年四月より、顧問 小林日出夫氏、所長 筆者、主事 成田修一氏というメンバーで運営に当る。運営委員は、川久保広衛氏・張明輝氏・寺山葛常氏。大方のご指導、ご支援を切望する次第である。

次号は、池田草庵特集ということで準備を進めている。御期待を乞う。（松川）

〔九号訂正〕 一五四頁 上段最後の行  
特↓殊（二字とも）、下段一四行目  
努↓勉（二字とも）、一五五頁上段  
一三行目、案↓章。

陽明学（年一回発行）

第十号

平成十年三月三十一日

定価 本体一〇〇〇円＋税

送料 二四〇円

編集責任者

松川 健二

発行責任者

小林 日出夫

発行所

二松学舎大学陽明学研究所

東京都千代田区三番町六一一六

郵便番号 一〇二一八三三六

電話 〇三―三三六―七四三八

発売所

株式会社 明德出版社

東京都新宿区新小川町八一二六

郵便番号 一六二一〇八一四

電話 〇三―三三六―四〇〇一

FAX 〇三―三三六―四〇〇三

振替 〇〇一九〇―七―五八六三四